

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	消防力の強化	担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	新型コロナウイルス感染症感染防止対策を徹底した講習を段階的に再開するとともに、感染状況を注視し、安心して受講できる環境を整え、継続的な講習を実施する。
②①に基づく取組み結果	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全ての講習会を中止とした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図(対象をどうするのか)	市民に心肺蘇生法、AEDの使用方法、応急手当の方法の普及啓発を図り、有事の際にしっかりした応急手当ができるようになる。
②事務事業の概要	救急車到着までの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により、実施方法の変更、講習項目が細分化され、今後、更なる受講者数の増加が見込まれている。開催方法については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、当面の間、人数制限や受講者1名につき個別の資器材を使用し、感染防止対策を徹底した講習会とする。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、全ての講習会を中止とした。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	救命講習修了者数	593	640	0	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	14,093	30,534	金額(千円)	内容		71,424	
国支出金(千円)			3,595	救急活動用医薬材料		46,100	
県支出金(千円)			6,334	感染症対策用備品			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	14,093	30,534				25,324	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	継続的に講習会を開催し、更なる受講者の拡大のため効果的な広報活動等の実施を検討する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することにより市民が安全に暮らせる社会に繋がる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消火栓改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	消防力の強化	担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	当初計画では7基であったが、新たに5基の腐食消火栓について改修の必要が生じたため、計12基の消火栓を改修する計画に変更した。令和2年度は3基の消火栓の改修を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	令和3年度から令和8年度までの総合基本計画前期基本計画に基づき、計6基の消火栓を改修するうち、令和3年度は1基の消火栓を改修する。
②①に基づく取組み結果	優先度の高い消火栓2基の改修を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消火栓	意図(対象をどうするのか)	経年劣化により破損の危険がある消火栓を改修する。
②事務事業の概要	経年劣化により破損の危険がある消火栓12基を、優先度の高いものから計画的に改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	消火活動に欠かせない消防水利について、有事の際の使用に支障がないよう今後も維持管理を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	計画に基づき、周辺水利の状況等を踏まえ消火栓2基を改修した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	改修完了消火栓	2	3	2基	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳		令和3年度予算	
事業費(千円)	5,547	3,188	金額(千円)	内容	4,030	
国支出金(千円)			3,188	消火栓改修工事		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	5,547	3,188			4,030	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	現在使用不能としている消火栓について、早急に改修を行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	消火活動に欠かせない消防水利について、今後も維持管理を行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	消火栓3基の改修	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	消火栓2基の改修を行った	4,135	4,135	当初	4,135	3,188	R1からの繰越	
③達成状況	未完了			R1⇒R2繰越			現年分	3,188
④未完了・非着手の理由	改修を計画していた3基の内1基の改修費用が、当初計画で算出していた費用よりも大幅に超過していたことから、周辺水利の状況等を鑑み優先度の高い腐食消火栓2基を改修した。			令和3年度への繰越額(単位:千円)				0

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	一般	9	1	2	
施策	消防力の強化	担当課室	警防課			
		担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団施設の維持管理及び人員確保と装備の充実化を図る。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	消防団施設・車両・資器材の維持管理及び人員確保を図る。
②①に基づく取組み結果	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、消防団訓練や出初式等が中止となったが、速やかな災害対応に備えるため、消防団施設や車両等の維持管理に努めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防施設、消防団車両	意図(対象をどうするのか)	災害活動に関する消防団員の環境整備及び消防団施設等の機能維持管理を実施する。
②事務事業の概要	各種災害に出動して、地域防災の中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	少子高齢化による人口減少、産業構造の変化に伴う就業形態の変化、さらに地域活動の希薄化といった社会状況から、消防団を取り巻く環境は大きく変化している。また、消防団員の高齢化が進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	迅速な災害対応が出来るよう施設、車両、資器材の点検や整備等を行った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	消防団員の定数に対する充足率	88.7	87	85.9	% 業務取得
	ii	機械器具点検	474	478	476	人 業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	29,699	22,326	金額(千円)	内容		39,976
国支出金(千円)			6,540	消防団員報酬		1,140
県支出金(千円)			3,457	費用弁償		
市債その他(千円)			4,565	負担金		
一般財源(千円)	29,699	22,326	2,060	消防団運営交付金		38,836

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	環境整備及び広報活動の拡充等を行い、団員の減少に歯止めをかけ人員を確保する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後、さらに高まると予想できるため、継続して行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団装備品整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	○
政策	安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	消防力の強化	担当課室長	松下 晃通			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	消防団員の防火衣について安全性、活動性に優れた防火衣への更新を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	消防団員の雨衣について、防水性、透湿性に優れた雨衣への更新を行う。
②①に基づく取組み結果	消防団員の防火衣について、安全性及び活動性に優れたものに更新した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団装備品	意図(対象をどうするのか)	消防団装備品について機能性等に優れたものに更新する。
②事務事業の概要	消防団員が効果的な活動を行うために、消防団装備品の充実強化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域防災の中心的役割を担う消防団の活動は、今後さらに重要となることが想定されることから、引き続き消防団装備品の充実を図る必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	防火衣30着を更新した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	新型防火衣の配備数	30	45	30	着	条例定数分
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	4,198	2,772	金額(千円)	内容		743	
国支出金(千円)			2,772	防火衣			
県支出金(千円)	699	462					
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	3,499	2,310				743	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	消防団装備品整備事業として計画的に装備品を整備する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に基づき、消防団装備品の充実強化を図る必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	防火衣の更新	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	防火衣を30着更新した	3,000	3,000	当初	3,000	2,772	R1からの繰越
③達成状況	完了			R1⇒R2繰越			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
令和3年度への繰越額(単位:千円)							0